

令和5年度幼稚園学校評価（大津幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・教育課程を見直し、指導計画に基づいた保育を実践している。反省、考察を行いながら学級経営に努めている。 ・職員、保護者の97%以上がA、B評価をしていることから、各担当が教育目標や目指す幼児像に向け、園の特色を生かした保育実践に努めていることが読み取れる。	4	4	・教育目標を基に学級目標を設定し、指導計画に基づいた教材研究や環境の構成をする等、ねらいを明確にもった保育の展開に努める。 ・定期的に反省、評価、改善を加え、よりよい学級経営に努める。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の様子から課題を捉えて保育を行っているか。	・日々の保育記録や定期的な「子どもを語る会」「保育記録会」を行うことで、多面的に幼児の発達等を理解し、指導計画や学級経営に生かすようにしている。 ・指導計画を基に補助教諭等と連携を図り、共通理解をしたうえで課題を捉え、成長を支える工夫をしている。	4	4	・一人一人の幼児の成長の過程、発達の課題を捉え、幼児理解を深めていく。教職員間の連携を強め、共通理解のもと望ましい支援に努める。 ・年中児発達事業、個人懇談、保護者からの行事の感想等を活用し、保護者と共に子どもの成長を共有し、連携を図っていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・特別な支援を必要とする幼児の実態把握に努め、園全体で共通理解を図り、特性に応じた支援に努めている。 ・家庭との連携や関係機関との連携を通して、幼児の特性の理解や支援のあり方、また、保護者の思いを共有した支援に活かしているよう努めている。	3	3	・特別な支援を要する幼児へのよりよい支援や保護者対応について、職員・保護者と共通理解を図りながら探ってきたい。 ・保護者の思いや願いを受けとめ、専門機関、関係機関、就学先との連携を図っていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・人権・同和教育を保育の根拠に据え、一人一人が安心感をもって自己発揮し、思いやりのある心が育つよう保育実践している。 ・毎月定期的に「ハートエピソード」の時間を設け、職員自身が自分の言動や幼児の人権等について振り返り、人権感覚を磨くよう努めている。	3	3	・幼児一人一人の人権を尊重し、互いに認め合い、育ち合えるよう温かい集団づくりをしていく。 ・園内外の研修に参加し、教職員自身の人権意識を磨く努力をすするとともに、職員間で伝達し合い、共通理解を図ってきたい。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・行事を行うにあたり、職員間で発達段階に応じたねらいを明確にし、幼児の育ちや生活の連続性、保育の充実につながるよう共通理解を図りながら取り組んだ。保護者に行事を行う意図や、取組の過程を通した発達の姿、成長等を伝え、園行事への理解を深めてもらうよう努めた。保護者アンケートは、A・B評価合わせて97%、教職員評価は100%であり、一定の理解が得られているといえる。	4	4	・今後も幼児の発達を促し成長の機会となるよう努め、反省を行うことで工夫や改善を加えていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・6月に保幼小連絡会、5月・12月に大津地区保幼小園長校長会が行われた。10月には出雲市保幼小交流の日があり、園児、児童の交流活動を行った。8月には、本園教諭が大津小学校にて2日間の異校種間交流研修に取り組んだ。11月に実施した園内研究会には大津小学校から参加があり、保育を通して意見交換を行った。互いの教育への理解、連携を図ることにつながっている。	3	3	・今後も交流や意見交換を行い、幼児・児童の実態や指導のあり方などについて理解を深め、小学校への滑らかな接続に努めたい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・幼児のよりよい成長を願い、保護者との共通理解を図るため年2回の個人懇談、連絡帳の活用、送迎時の対応、タイムリーな便りの発行等、細やかな連携を大事にしている。年間8回の未就園児教室を実施し、幼稚園教育についての情報発信に努めた。 ・地域との連携を積極的に図り、直接体験を保育に多く取り入れた。大津のよさを知る機会にもなった。	4	4	・今後も幼稚園、保護者、地域との連携推進を図り、保育の充実を目指していきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・各自が必要な研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努めた。研修内容を園内で伝達し合い、保育や執務に活かすようにしている。 ・日頃の保育実践から各年齢における環境の構成と教師の援助について定期的に話し合いを行い、幼児理解を深めたり保育の工夫に努めたりした。また、指導者を招き、園内研究会を実施したことで多くの学びを得ることができた。	4	4	・研修を通して園全体の保育の質の向上に努めたい。全職員が参加しやすく、互いに学び合える機会や内容について工夫していく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・園務分掌における各担当者は早めの計画、全職員への周知を図るよう努め、協力・連携をしながら業務の遂行にあたっている。 ・評価がA・B合わせて100%であることから協働して行うことができていると思われる。	4	4	・今後もコミュニケーションの促進を図り、職場の活性化を図る。互いに助け合い、協力し合える教職員集団となるように努める。 ・計画的な園務の執行に努めると共に、業務の効率化も検討していく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・危機管理マニュアルを基に各種災害を想定した避難訓練、防犯教室、交通安全教室、外部講師による職員救命研修等を計画的に行った。安全管理・危機管理についての意識を高め、適切な対応ができるよう努めている。 ・衛生面、保健面での危機管理については養護教諭不在のため園長が中心となり、マニュアルを基に職員間で共通理解を図りながら感染防止、事故防止等に努めた。	3	3	・今後もいろいろな状況を想定した避難訓練を行い、職員の危機管理意識を高めたり、臨機応変な対応力を身に付けたらしていく。 ・適宜、安全管理・保健管理等についての情報や取り組みを保護者へ伝えることで安心感をもてるようにしていく。 ・引き続き養護教諭の配置について行政へ要望を行っている。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月「安全の日」を設け、チェック表を基に施設、設備の点検を行い、不具合が見つかった場合は早急な対応、修繕に努めている。今年度も老朽化による改修箇所があり、教育施設課、対応業者と連携を図り対応した。他にも修繕の必要な箇所があるため、年次的に行う必要がある。（次年度はテラス屋根の大掛かりな修繕工事が予定されている）	3	3	・毎月の安全点検を細やかにを行い、危険箇所については必要な改善を図り、速やかに対応することで教育環境整備に努める。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する